

理事長あいさつ



一般社団法人日本搬送学会理事長(代表理事)

野口 宏(愛知医科大学名誉教授)

2023年9月9日～

(2024年4月1日 法人化)

私は半世紀にわたり、主に災害および救急医療に携わってまいりました。

1994年4月に名古屋空港で発生した中華航空140便墜落事故の対応、2005年日本国際博覧会(愛・地球博)における救急医療体制の構築とAEDの普及、そして愛知県救急業務高度化推進協議会長として愛知県の救急業務の高度化に邁進してまいりました。いずれも私としては最善を尽くし、やり切ったという思いがございました。

2023年4月、鎌倉さんと後藤さんが私のもとを訪れました。彼らは「日本には、搬送で困っている人がたくさんいる。何とかできないか」との話の中で日本搬送学会の設立を提案し、私に代表になって欲しいと要請しました。

私は、少しゆっくりしたいという気持ちもあり最初はお断りしましたが、最終的には彼らの熱意を受け入れ、諾と返事をいたしました。ただし、受け入れるにあたって一つだけ条件を示しました。

「いままでと同じ学会なら、自分はやらない。」

日本には様々な学会があります。その中で「搬送」もテーマの一つとされてきましたが、救急あるいは災害というカテゴリーの中での議論であり、「搬送」そのものを対象とする学会はこれまでありませんでした。私はやるからには、「搬送」と正面から向き合い、救急搬送に限らないあらゆる「搬送」の周辺にある諸課題を、何よりもスピード感を持って解決してまいりたいと考えています。学会として基本的な調査研究は勿論重要ですが、それとともにそうした調査研究の成果を政策として具体化し、実現することはより重要だと思います。

2005年日本国際博覧会がきっかけとなりAEDは、今や街角のありふれた景色となりました。5年後になるか10年後になるかわかりませんが、国民が誰一人として搬送に困ることのない社会を必ず実現できると確信しています。

そんな一朶の雲だけを見つめ、日本搬送学会と一緒にこの坂道を登りたいと思います。